

目的

和服の着装時における衿の形態は、衿型の作図と着装によつて決まる。私達がすでに提案したU衿型作図法は、三点図法と同じように着装時の衿付け線を頸椎点からの下り寸法 d_1 、頸側点からの離れ寸法 d_2 を規定し、それらによつて上り衿肩明き寸法 l_0 と上り繰越し寸法 l_1 を採寸する方法である。この方法によつて製作した長着の着装時の衿の形態と d_1 、 d_2 との関係を説明する。

方法

頸椎点からの下り寸法 d_1 、頸側点からの離れ寸法 d_2 を指定しても体型によつて上り衿肩明き寸法 l_0 、上り繰越し寸法 l_1 は異なるので前回と同様に LIRICA 9 号のスタンドを使用することとした。 $d_1 = 10 \sim 50 \text{ mm}$ 、 $d_2 = 30 \sim 50 \text{ mm}$ について 10 mm 間隔に l_0 、 l_1 を採寸して、それぞれについてU衿型作図を行い、衿先点での身頃の衿付け線の傾斜寸法を 10 mm とし衿の型紙を製作した。実験衣の縫製は浴衣地を用い衿幅 55 mm の袴衿とした。これらの実験衣を d_1 、 d_2 を指定通りに着装し、衿の打合せ点を一定にした時の打合せ角、衣紋角、稜角を測定し衿の形態を数量的にとらえる。

結果

打合せ角は衿の打合せ点までの寸法 d_1 が小さいほど大きくなり、 d_2 の増加につれて小さくなる。衣紋角は d_1 の増加とともに大きくなり、 d_2 の増加につれて減少する。稜角は d_1 が増すと増大し、 d_2 が増加すると減少する。